

第5回利賀地域義務教育学校設置協議会会議録（要点記録）

【日時】 令和5年2月15日（水）開会：午後5時 閉会：午後6時45分

【場所】 利賀市民センター 2階会議室

【出席委員】 成瀬 喜則 委員長 松本 謙一副委員長 扇澤 文夫 委員
笠原 一忠 委員 城岸 千秋 委員 須河紗也子 委員
瀬戸 広美 委員 高瀬 夕紀 委員 高田 公美 委員
野原 哲二 委員 米倉 健太 委員 米倉 宗嗣 委員

【事務局員】 教育部長 村上 紀道 教育総務課長 氏家 智伸
教育総務課副参事 吉尾 徹 教育総務課主幹 山田 浩司
南砺市教育センター長 山田由紀子

1 委員長あいさつ

2 報告事項

- (1) 第3回協議会（令和4年12月7日）議事録について
- (2) 奈良県下北山村立下北山小中学校視察について
- (3) 「部会組織」と「協議内容とスケジュール」の修正について

3 協議事項

- (1) 学校名について（地域づくり協議会）
- (2) 各部会からの提案及び進捗状況について
 - ① 校歌、制服、ランドセル等について（地域・PTA部会）
 - ② 学校教育目標、学年区分等について（教育課程検討部会）
 - ③ 施設・設備等について（事務部会）

4 第6回協議会の日程

5 閉会 副委員長あいさつ

1 委員長あいさつ

委員長 現在、各部会に分かれて協議を進めていただいている。この協議会でそれぞれの部会の思いをくみ取りながら、いろいろな方面に学校を含めて利賀地域について発信し、山村留学が受け入れやすいような学校・地域づくりのために皆さんの意見をいただきたい。

2 報告事項

- (1) 第3回協議会（令和4年12月7日）議事録について

事務局 【資料1の説明】 主な確認内容 ①3部会の役割 ②検討内容の決定までの流れ ③校名の提案 ④開校までのスケジュール ⑤保護者・地域のアンケートの実施

委員長 部会の提案が決定ではなく、協議会でさらに深い協議をして協議会案を作成したい。

(2) 奈良県下北山村立下北山小中学校視察について

事務局 【資料2の説明】 主な確認内容 ①保・小・中のスローガン「14歳の春」について
②制服、かばん ③部活動の状況 ④児童生徒数を増やす取組 ⑤学校名の候補 ⑥前期課程、後期課程の授業時間

委員 新しい校歌は、中学校の校歌を基に作った。小学校の校歌も忘れないように、新しい校歌の間奏に小学校の校歌のメロディを入れるなど工夫されていた。

委員長 中学校の校歌を使って、校名の部分を「小中学校」と歌詞を変更していた。慣れ親しんだ校歌を大事にしていた。自立心を養うことを最大の目標としている。学校規模が利賀小・中に似ていた。山村留学をやめた理由はいくつもあるそうだが、利賀の場合は乗り越えられるようにしていきたい。気軽に利賀の山村留学に参加できるように費用の面なども配慮すればよい。

副委員長 利賀とよく似た規模の学校であった。学校、市教委の方に詳しく説明いただいた。村をあげて学校を大事にして、子供たちを育てていこうとする考えは利賀と通じるものがあった。

委員 地域に学校を残したいという思いが伝わった。保育園が併設されていたことが先進的であると思った。利賀の校名については、下北山小中学校と同じく地域の思いを尊重してほしいと思った。地域おこし協力隊が地域に深くかかわっていた。保育園の6名の子供が、協力隊にかかわった方の子供さんであった。利賀も移住定住を進めているが、参考としていきたい。

(3) 「部会組織」と「協議内容とスケジュール」の修正について

事務局 【資料3、4の説明】

委員長 学校教育目標は、今日決定するのか。

事務局 今日決定されなくてもよいが、方針はこれでよいという意見をいただければよい。

委員長 学校名と学年区分については、協議をして次回で決定したい。

3 協議事項

(1) 学校名について（地域づくり協議会）

委員 12月2日の区長会で、各地域で校名案を募集して提案してほしいこと、また、小学校中学校の皆さんにも考えてほしいとお願いした。1月中旬に地域づくり協議会の正副会長会議を開催し、地域づくり協議会としての考えをまとめた。設置協議会の利賀地域の委員の皆さんと1月27日に資料5にあるように5つの案に絞った。卒業証書等は、縦書きなので横文字（カタカナ）は避けた方がよいのではという意見もある。慣れ親しんだ現在の校歌を生かすとなれば、歌詞に入れることを考えて校名を検討する必要があるかもしれない。まず、校名を決めなければ前に進まない。我々の思いとしては、利賀の名前を入れることが望ましいと考えている。

委員長 利賀の名前を残したい、学舎を付けること、「南砺市立」が入ることを頭に入れておきた

い。ある程度文字数も考慮する必要があるのではないか。

委員 地域で、学舎ではなく学校でもよいのではという意見があった。学舎は決定ということなのか。

事務局 決定ということではない。ただし、市内の他地域にも義務教育学校の設置の動きがあり、市内で統一感をもたせるために義務教育学校には学舎を付けた方がよいのではないかとこの考えはある。

副委員長 南砺市は、「一流の田舎」を目指すことを掲げて取り組んでいる。学舎という言葉は、一流の田舎を目指す南砺市の義務教育学校にふさわしいのではないかと。南砺の義務教育学校であるということが一目でわかるとよいと思う。

委員長 小中学校と名前がついている学校は、義務教育学校とは限らないのか。

事務局 義務教育学校ではない。小中一貫校で小中学校という名前がついている場合もあり、全国にはいろいろなパターンがある。

委員長 南砺市は、統一感を持たせたほうがわかりやすいということであろう。

委員 一流の田舎を目指す南砺市には、ふさわしいと思われる。しかし、必ず学舎を付けなければならぬということではない。

委員 あまりこのことについてこだわりすぎず、統一感のある学舎を付ける方向がよいのではないかと。ただし、利賀地域の意向もしっかりと聞いていきたい。

委員 私も学舎でもよいと思っている。しかし、保護者、地域の方々の意見では、学舎は箱のイメージがあり、なじめないという思いがある。委員として、そのような考えの方に納得してもらえる説明がしたい。

委員 市の意向であること、南砺市の統一感を持たせたいことなどを説明すればよいのではないかと。

委員 自分たちの地区で話し合いが行われ、その中で、学舎とはどういう意味なのかという質問があった。聞きなれない、よくわからないという意見があった。地域の方に対して説明し、分かってもらえるように、南砺市の方針のようなものを示してほしい。それがあれば私達も説明しやすい。利賀という地域名はぜひ残したい。

委員 今回、候補として挙げられている校名案の全てに、利賀と学舎が入っていることは、地域の意見として外してはいけない言葉と考えられる。南砺つばき学舎の校名については、近隣の学校と統合できる環境にありながら、井口地域に学校を残すという方針のもと、南砺市初の義務教育学校として、特色ある教育をしていくとの考えから井口の地域名を外すことになった。利賀については、近隣の学校との統合は難しく、このことから利賀という名称は、残したい。

事務局 井口地域の方にも納得いただけるよう、利賀の名称を校名に入れる理由を説明したい。南砺つばき学舎の校名についても、新しい学校の開校ということで学舎を付けた。

委員 南砺市立利賀学舎、南砺市立利賀未来学舎などが校名としてふさわしい気がする。

委員 アーパスは利賀の人たちにとってもなじみのある言葉である。

委員 利賀もアーパスも場所を表す言葉なので、どちらかにする必要がある。そう考えたとき、利賀という名称が世界に通用するものである。アーパスという言葉は、他地域の人にはわからない造語である。

委員長 インターネットで調べるとアーパスという言葉には、水の精、会社名等があるとわかった。

委員 未来というのは、山村留学の将来的なことも含めて提案している。

委員長 南砺つばき学舎を例に考えると、井口を象徴する「つばき」が入っているが、井口の名前を入れるとしたら、つばきは入らなかったかもしれない。利賀の場合は、「やまびこ」「とちのき」「未来」が入る可能性はある。

委員 南砺市民には、つばきは井口地域と分かるが、市外の方は、つばきと聞いてもどこの地域か分かりづらいかもしれない。

副委員 そのために利賀を入れようと考えている。

委員長 さらに付け足して利賀を象徴するものを入れるかどうかである。

副委員長 未来やとちのきを入れるのか入れないのか、または、利賀学舎とするのか。

委員 案としてささゆり、未来などの言葉が挙げられたが、ささゆりは保育園で、未来は利賀未来留学で使われていて、混同するかもしれないので、利賀学舎でいいのではないかという意見もあった。

委員長 もう少し地域の皆さんの意見をいただき、次回に設置協議会案を決めればどうか。

委員 もう少し絞った形で提案すればよいのではないか。

事務局 設置協議会では議会に対し、候補に挙げたものをいくつか示して、その中から一つに絞って提案したい。3月の協議会で一つに絞りたいので、今後、地域の方ともう一度協議していただいて、考えをいただきたい。

委員 アーパスを抜いたもので考えていいのか。

事務局 それらについては、もう一度委員の皆さんの関係団体に持ち帰っていただいて、協議してほしい。

委員長 他からも見てわかる学校名にしてほしい。アーパスは会社名にも使われているので、その点についても心配している。

副委員長 アーパスの名称は、なくなるわけではない。

事務局 それぞれの関係団体に話し合ったことをもちより、地域づくり協議会で再度協議していただいて、次回の設置協議会に提案していただき会議資料としたい。

委員 次回の設置協議会はいつなのか。

委員 校名が正式に決まらないと進められないこともあるので、6月の議会までには決めたい。議会への事前説明も必要になるので、4月中旬までには設置協議会の意見を決めたい。

委員 地域づくり協議会の委員改選があるので、年度内に決めさせてほしい。

委員 学校名にアーパスがつかないとしても、施設名としてアーパスは残るのか。

事務局 複合施設の総称として残る。

委員長 次回に、二つ三つぐらいに絞った校名候補を挙げてほしい。設置協議会として案を決定したい。

(2) 各部会からの提案及び進捗状況について

① 校歌、制服、ランドセル等について (地域・PTA部会)

委員 【当日配布資料1の説明】 令和6年度に入学する児童生徒の保護者は、入学式に新しい制服を用意したいという思いがあるので、制服を新しくすることに決まれば、間に合うように話を進める必要がある。

委員 移行期間とあるが、新しく入学する子供たちは、新しい制服を着ることになる。

委員 制服のおさがりがない家庭は、新しい制服を着られるように早めに決めてほしいという要望が強い。

委員長 校歌については、スケジュール案通りにはいかないのか。

委員 話し合いを継続させたい。

事務局 ゴールを決めて検討いただくものではない。十分な協議を経て開校後の令和7年度に新校歌ができるということになってもよい。

委員 国吉義務教育学校では、開校後、しばらくたって校歌ができたと聞いている。慌てるよりは、しっかり議論したい。

事務局 制服についても同じように考えてもよい。遅れて令和7年度から新制服を着用ということも可能である。

委員 制服については、地域・PTA部会では、新しく作る方向で意見は統一している。

委員 デザイン等で意見が分かれるかもしれないが、新しく作る方向で進めていく方がよい。

副委員長 体操服をそろえる理由はわかる。ランドセル、うち履きがある程度、選択が任せられているが、これは華美にならないように自分で考えて選ぶ必要があり、また、山村留学の子供たちも新しいものを購入する必要がないという点でよいと思う。制服については、利賀の規模を考えても、一人一人の個性を発揮する、個性を伸ばす学校を作るのに、統一した制服が必要なのか。15歳で独り立ちできる子供を育てるとするならば、場に応じた服装を自分で考えて選ぶこと、わきまえて行動できる子供を育てるうえでも制服は決めなくてもよいのではないか。

委員 山村留学としては、制服はあった方が都合がよい。

副委員長 何も制約がないとなると親も困るだろうから、標準服という考え方で、安価な物でもよいとすればどうか。

委員 安価なものがよいと思う。

副委員長 かばんについては、安全に配慮して、背負って両手があくものという条件はよい。こういうものの考え方ができる子供が目指している姿ではないか。

委員 制服は自由という保護者もいる。簡素化した制服となると考え方が人それぞれ違うので、差が出やすくなる。

委員 制服のデザインは、ブレザー型が男女区別なく着用できるのではないか。

委員 それが男女関係なく、受け継がれていくとよい。

委員 個人的には、私服がよいと思っている。しかし、制服がないと、式の時にその場にふさわしい私服を購入する必要があり負担であるとの意見もある。

副委員長 式のときは、それにふさわしい服を着て、それ以外は私服にしてもよいと考えている。

委員 いろいろな考えがあることを承知した上での折衷案である。

副委員長 式があるときは、ある程度決められた標準服的なものを着用し、それ以外の時は私服とすればよいが、それは保護者が大変だということは分かる。

委員 朝の時間がない中で、子供たちが学校に着ていこうとする私服のチェックをすることが難しい。服装以外の面で自立を育てたい。

委員 保護者アンケートでも制服はあった方がよい、という意見は多かった。

副委員長 ランドセルやズックは自分で選ばせて、制服は決めるということは、方針に一貫性がないともとらえられる。

委員 制服は毎日着用するが、かばんは、ほぼ毎日同じものを使うという点で制服とは違う。

委員 制服を取り扱う業者はどのように決めるのか。

副委員長 南砺つばき学舎の例を参考にしてほしい。子供が少ないので、価格が高くなることも予想される。そのため、例えばユニクロの既製品を標準服とすることもよいのではないか。

委員 実際、ユニクロの製品を制服としている学校があると聞いている。安いというメリットもある。

副委員長 ユニクロの製品を標準服とすれば、山村留学の保護者にとっても負担が少なくなると思う。

委員長 量販店の製品をいくつか指定するなどして、山村留学の子供も利賀の子供も統一した制服ではなくて自分で選ぶことができるようにすることもよいという意見か。

事務局 ①校歌～⑥校内ズックまでの各項目について、今後どのように取り扱うのかを方針を決めていただきたい。

委員長 校歌については、継続審議とあるので、新しく作るのか、今の校歌を使うのか決めていただきたい。用途はいつごろになるのか。

委員 校名が決まるまでは、進めづらいのではないか。

委員 校歌に関しては、地域の方の思いもあるので急がずに、丁寧に進めたい。

委員長 6月までに提案でよいか。6月まで、既存のものを使うのか、新しく作るのか方向性を決めてほしい。

委員長 校章については、校名が決まった段階で公募する。

副委員長 スケジュール案とおりに進めればどうか。

委員長 制服については、今の議論を受けて持ちかえって、継続審議ということになる。

副委員長 6月をめどに統一した制服を作るのか、標準服を決めるのか、あるいは完全自由服にするのか提案してほしい。

委員長 体操服は、新しくするにしても業者との調整が必要である。④体操服、⑤ランドセル、かばん、⑥校内ズックについては、提案通りに進めることにする。

② 学校教育目標、学年区分等について (教育課程検討部会)

委員 【当日配布資料2】の説明

校訓は決めずに、学校教育目標を「心豊かに たくましく 学び続ける子供」としたい。「心豊かに」は、いろいろな方との交流、ふれあいを通して、人の役に立つ、感動する、思いやりの心を持つ子供を育てたいとの願いがある。「たくましく」は、自立を見据えて、自分の考えや気持ちを大切に、困ったことがあれば助けてほしいと声を上げることもたくましさと捉える。利賀の大人の人は、いろいろなことに挑戦し、いろいろなことができる。そのような利賀の人たちの気質を引きついでほしいとの思いがある。「学び続ける」は地域や生活をよりよくするために、学ぶことに興味・関心をもって、学び方を身に付けてほしいとの思いがある。

委員長 校訓はなくてもよいのか

委員 なくてもよいものである。

委員長 資料にある超個別指導という言葉はあるのか。

副委員長 個別指導を大きな柱としたいという強い思いの表れだろう。「心豊かに」はどの言葉に係るのか。

委員 3つの言葉はそれぞれ独立している。

副委員長 学び続けることがすべてのゴールのように見える。心豊かに学ぶはわかるが、たくましく学ぶというのは、少し違う気がする。「心豊かに 学び続ける たくましい子供」の方が15歳の最後のゴールにぴったりくるのではないか。

委員長 この3つは並列しているように見ればよいのかもしれない。

副委員長 現在の小学校の「育てたい子供像」のように表せばよいのかもしれない。

委員長 もう少し議論して、次回に再提案してほしい。

委員 学年区分について、二つの案がある。一つは、前期課程6年間、後期課程3年間とするもの。もう一つは、前期4年、中期3年、後期2年とする案である。6年生の最高学年としての経験や後期の7年生に向かうための区切りとするためにも6-3制がよいと考えている。山村留学生が毎年入ってくる（出ていく）ことも考えると、一般的な小学校、中学校に合わせて6-3制がよいという意見が強い。

副委員長 小・中の区切りをなくすために、4-3-2制とする学校もあるが、教科書等の区切りを考えるとやりにくい面がある。それも考慮して考えてほしい。

委員長 次回までに最終案を提出してほしい。

③ 施設・設備等について 事務部会)

事務局 事務部会の進捗状況については、先日部会が開催され、教室、職員室等の移動などを考慮して必要な経費等について今後検討していくこととなった。

委員 施設、設備については、施設の老朽化も進んでいるので、地域・PTA部会では、このままの状態でのよいのかという意見がある。施設設備についての要望を地域・PTA部会から出してもよいのか。

委員長 要望、意見等は、この協議会に出してもらってもよい。

4 第6回協議会の日程

事務局 次回の協議会については、3月中は厳しいのではないかと。

委員 役員の交代もあるので、年度内に決めてほしい。

事務局 3月で日程調整をする。

委員長 事務局で3月中の開催で日程調整をしてほしい。

5 閉会 副委員長あいさつ

副委員長 山村留学の子供たちも含めて子供たちのために少しでもよい学校にしていきたい。できれば持続可能な形のものにしたい。委員の皆様との協議を経て令和6年度の開校に向けて進めていきたい。